



あいちモリコロ基金運営委員会主催
あいちモリコロ基金終了記念フォーラム

成果調査報告「基金の成果」

2018年11月12日（月）

後藤澄江（あいちモリコロ基金運営委委員会副委員長）

モリコロ基金設立の趣旨

- 愛・地球博（2005年開催）の残余財産の一部をもとに2007年8月に基金設立、10年程度で使い切ること
- 設立趣旨：より良い社会づくりを目的とする**市民の自発的な社会貢献活動**を**毎年度**支援し、愛・地球博の理念である**持続可能な社会の創造**を目指すこと
- 愛知県を始めとする地元4団体（県、名古屋市、名古屋商工会議所、一般社団法人中部経済連合会）等による「愛・地球博社会活動等支援基金検討委員会」において、**公益信託方式**とすること等を検討

モリコロ基金の枠組み

- ▶ 委託者：愛知県
 - ▶ 受託者：三菱UFJ信託銀行株式会社
 - ▶ 運営委員会：10名（助成先選考、重要事項の助言等）
 - ▶ 基金サポート組織：ボランタリーネイバーズ（申請者支援、市民意見を基金運営に提言）
-
- ▶ 信託財産：金銭1,293,296,430円（当初）
 - ▶ 給付方式：10年間の取り崩し方式による助成金給付

助成（活動支援）の種類

当初は4種類→2011年から3種類
毎年1億円程度の助成

- ◆「初期活動」助成：1件30万円以内で年間100件程度
活動開始後5年以内の団体又はグループの活動
- ◆「展開期活動」助成：1件100万円以内で年間50件程度
（当初の「協働活動」助成は2011年から展開期活動に包括）
一般社会貢献活動
- ◆「大規模活動」助成：1件500万円以内で年間8件程度
十分な事業経験や知識がある団体等が行う大規模活動

運営委員会の職務

- ▶ 毎年の募集要項等の諸規定の制定と改廃
- ▶ 助成先の審査・選考
 - 年2回の募集。2007年10月の第1回助成活動募集から毎年1億円程度を助成。
 - 「愛・地球博理念の継承性」「必要性・公益性」「先駆性・先進性」「発展可能性」「実現可能性」「費用の妥当性」といった審査基準
 - 助成対象は愛知県及び隣接県（岐阜県・三重県・静岡県・長野県）の5名以上のグループ又は団体（隣接県の場合は愛知県内の団体等との共催に限定）
 - 書面審査とともに公開審査の実施
- ▶ 実績報告会での点検と助言
- ▶ 3年毎に成果チェックし、制度を見直し

2014 - 15年調査を踏まえたモリコロ基金の評価 (『助成活動成果調査報告書』(平成27年6月刊行より))

- ▶ 市民主体による環境保護やリサイクルの推進を後押し
- ▶ 国際イベントを支えるボランティア人材の発掘・育成
- ▶ 社会福祉制度の狭間に置かれたり、制度だけでは解決できない困りごとに直面したりした人々への個別支援とともに、そのしくみの開発
- ▶ 助成団体の存在、また、取り組む社会のニーズ・課題の認知を進めることに貢献
- ▶ 事業の対象者・受益者の自信や誇り、社会参加を育成
- ▶ 地域の協力関係の構築やコミュニティづくりに寄与

①10年間(2008.1~2018.9事業実施)の助成の実績

助成の種類	助成総額 (単位:万円)	助成件数 (件)	申請件数 (件)	採択率 (%)
初期	30,314	1,040	2,108	49.3
展開期・協働	42,164	482	1,284	37.5
大規模	35,864	81	342	23.7
	<合計> 104,382	<合計> 1,603	<合計> 3,734	

②10年間の助成件数10位までの活動分野 (19分類のうち、件数からみた順位)

順位	1位	2位	3位	4位	5位
活動分野	環境保全	子どもの健全育成	保健医療福祉	まちづくり	社会教育
助成件数 / 採択率	298件/ 49.8%	288件/ 42.9%	276件/ 43.1%	203件/ 40.0%	106件/ 48.2%

順位	6位	7位	8位	9位	10位
活動分野	国際協力	災害救援	団体助言援助	学術・文化・芸術・スポーツ	人権擁護平和
助成件数 / 採択率	89件/ 48.1%	68件/ 61.8%	48件/ 40.7%	45件/ 16.4%	42件/ 55.3%

* 助成件数は初期、展開（協働）、大規模を合計したもの。

③10年間の地域別助成件数 (件)

	名古屋	尾張・海 部	知多	西三河	東三河	県外
初期	423	286	79	170	71	11
展開・協 働	228	139	23	48	42	2
大規模	51	10	9	7	4	0
合計	702	435	111	225	117	13
採択率 (%)	42.5	43.7	42.4	44.2	42.5	31.0
全体に占 める割合 (%)	43.8	27.1	6.9	14.0	7.3	0.8

④実績報告書等集計による成果数値

- ▶ 事業に携わったスタッフ；のべ21,560人
- ▶ ボランティア；のべ15,065人
- ▶ 活動に参加した人；のべ1,050,992人
- ▶ 活動に協力した人；のべ13,486人
- ▶ 施設の改善や建設；のべ84,321件
- ▶ 環境の整備；のべ428,257件
- ▶ 広報物の製作；2,947,357枚
- ▶ 教材・テキスト製作；63,400枚
- ▶ 記録冊子；109,228部
- ▶ ホームページ制作；6,127件

最終アンケート調査の概要と主な結果

<概要>

調査対象：助成団体

調査期間：2017年12月～2018年1月

回答数：582団体（うち、初期482、展開81、大規模19）

<主な結果>

・「①発展した形で実施している」が40.4%と最も多く、「②そのまま継続している」24.9%で、①②の計は65.3%。また、「③縮小し継続している」は14.4%となり、約8割は継続実施。（2014－15調査の回答は約9割）

・76.6%の団体が助成事業を通して取り組んだ課題は引き続きの取り組むべき課題であると回答。

・助成事業終了以降に事業の効果を調査した団体は20.6%^{o1}

モリコロ基金の影響

（「当てはまる」＋「ある程度当てはまる」の割合）

<半数以上>

「団体の認知度や信頼度が上昇」（74.1%、展開・協働では90.1%）

「活動の担い手の力量が向上」（69.4%）

「活動の担い手や協力者が増加」（65.7%、大規模の場合89.5%）

<半数以下>

「団体の事業・財政規模の増加」（49.8%）

「行政との関係や仕事のきっかけ」（45.7%）

「他の助成金の獲得」（24.7%）

「会費や寄付の増加」（20.6%）

助成事業実施が人や団体との協力関係に与えた変化 (協力関係が深まった) 及び (協力関係ができた) (%)

	対象者・受益者	対象者の支援者・関係者	地域住民・地縁組織	他のNPO/ボラ団体	学校・教育機関・専門家	企業・営利団体	行政・議会
初期	28.8 & 39.0	19.1 & 35.9	12.0 & 30.3	15.8 & 40.0	14.7 & 31.3	6.4 & 21.6	12.0 & 31.3
展開・協働	45.7 & 40.7	27.2 & 38.3	12.3 & 25.9	16.0 & 49.4	29.6 & 42.0	11.1 & 18.5	12.3 & 39.5
大規模	57.9 & 31.6	52.6 & 31.6	15.8 & 52.6	31.6 & 52.6	21.1 & 47.4	15.8 & 36.8	15.8 & 26.3
全体	32.1 & 39.0	32.1 & 38.8	12.2 & 30.4	16.3 & 41.8	17.0 & 33.3	7.4 & 21.6	12.2 & 32.3

助成団体からみたモリコロ基金の 成果や実現したこと（当てはまるもの3つまでの回答）

「NPO等市民活動の活発化・力量拡大」（56.7%／23.1%）

「市民参加の促進」（48.6%／19.8%）

「多様な立場の人の共生・交流ネットワーク・協働の発展」
（38.1%／15.6%）

「新たな社会課題・地域課題への取り組み拡大」（38.1%／15.6%）

「社会課題・地域課題の解決の進行」（31.2%／12.8%）

「地球規模の課題を我が事とする市民や活動の増加」
（13.9%／5.7%）

「持続可能な社会づくりの取り組みの着手・拡大」（11.5%／4.7%）

*（対回答団体数／対回答数）